

全体総括

小野全子 [愛知建築士会 理事、(株)オーラッド 常務取締役]



全国女性建築士連絡協議会は、平成2年に第1回目を東京で開催して以来、各地域での開催を交え、今年で第23回目を迎えました。

本年度は、メインテーマを「地域と共生する居住環境づくり」とし、「見直そう、これからの住環境と暮らし方」をサブテーマとしました。

基調講演には天野彰先生をお迎えして、これからの住まい方や生き方の発想の転換の中に、“減築”という考え方もあるのではないかと、歴史を紐解くことで、多くの学ぶべき点があることを教えていただきました。

続いて多くの皆様にご協力いただいた「高齢者・障がい者の居宅サービスの受給に適した住宅事例調査」の進捗について報告しました。

兵庫県のユニバーサルデザインに関する10年間にわたる活動の取り組みは、女性委員会が地域と一緒に活動を行うことのとてもよい参考になったのではと思います。鳥取県の地域防災における建築士の役割では、DIGの手法を通して、災害を想定した行動について日頃からの準備が大切であることを再認識しました。

継続して発表していただいている被災地の皆様からは、現在の復興状況と取り組みについてお話をいただきました。生活と、それを支える産業に至るまで、さまざまな取り組みがなされていることを認識した次第です。

2日目の分科会では、「震災① 防災への取り組み」「震災② ボランティア活動の報告と取り組み」「歴史的建造物と建物再生」「環境共生住宅と素材」「景観まちづくり」「子どもと住環境」「高齢社会」「集まって住む」の8つのテーマに分かれ、それぞれについて熱心に討論をしました。これらの活動の中に見られる知恵や工夫、さらに強い思いを持つことの大切さを教えていただきました。

その中で問題点、課題、そして建築士として取り組まなければならない新たな発見ができたのではないのでしょうか。それぞれの地域での貴重な活動を参加者の皆様と分かち合い、ご自身の士会に持ち帰っていただくことで、さらなる地域の発展につながると思います。

今回の大会が皆様の今後の糧となりますことを祈念して、総評とさせていただきます。



永井香織委員長によるオープニング報告

▶ 平成25年度 第23回全国女性建築士連絡協議会 アピール

- 1 私たちは、今回の協議会を通し、女性建築士として、地域に根づいた活動を行い、次世代を担う子どもたちや、生活の礎を築いてこられた高齢者にとって、安全で安心できる暮らしを提案していきます。
- 2 私たちは、今回の基調講演を通して、専門家および生活者としての視点から、それぞれの地域での未来の暮らしを見据えた「地域と共生する住環境づくり」をめざします。
- 3 私たちは、継続して行ってきた東日本大震災の被災地からの報告を生かし、支援ネットワークの有効性や、防災についての知識や環境づくりの情報を公開し、同時に次世代の環境を守るため、低エネルギー社会の構築をめざします。
- 4 私たち建築士は、異業種の専門家との連携の重要性を認識し、地域全体、企業、行政等の専門家と協働して、誰もが暮らしやすい社会の実現をめざし、諸活動を実践します。